

## 中山間地域での集落活動と地域福祉活動の展開に関する考察

### —A市B地域の地域づくりアンケートの結果を中心に—

○ 山口福祉文化大学 氏名 横山順一 (会員番号 003978)

キーワード：中山間地域、高齢化、地域活性化

#### 1. 研究目的

中山間地域は、都市及び平地以外の中間農業、山間農業地域をいう。平地での農業に比べて傾斜地が多く、土地を広く取れないために大規模化も困難である。このような地域は全国の60%程度を占めており、そういった地域の多くは地域人口の高齢化、次世代の担い手不足に悩まされている状況にある。超高齢社会を迎え、本格的な福祉社会の取り組みが求められている今日、高齢者の生活問題を中心に様々な地域課題を抱えている中山間地域への方策を見いだすことは急務の課題である。

A市もまさにその特徴を抱えている。昭和50年から平成17年までの30年間における人口減少率は23%と人口の流出は大きな課題となっている。さらに、平成17年度の市町村合併によって、A市全体が過疎地域の指定を受け、過疎現象に歯止めをかけるべく総合的かつ長期的な視点で生産基盤の強化や生活環境の整備を進めているところである。

特にA市は、合併前の旧A市の高齢化率が約33%に対して、中山間地域であるA市B地域(旧B村)の高齢化率は約45%と、非常に高い高齢化現象が起きている。このような地域においては、住民個人の生活だけではなく地域共同体としての生活環境においても様々な困難を抱えていることが想定される。A市B地域における地域の共同性は、具体的なつながりである集落活動によって保持されているものと考えられているが、それに対しては客観的な根拠はこれまで示されてこなかった。

本研究では、中山間地区の地域住民の生活環境、現在抱えている生活課題、今後の将来展望等の地域づくりアンケートを通して、地域共同体としての集落活動にかかる諸問題から地域福祉活動の展開の方向性について明らかにすることを目的とする。

#### 2. 研究の視点および方法

高齢化の進展、過疎状態にある中山間地域の住民が抱える具体的生活課題や地域内に内在する福祉課題は、高齢者が抱える課題ぬきにはとらえることは不可能である。同時に高齢者だけの課題だけではなく、地域を支える様々な世代、階層が抱える課題でもある。そのような複合的課題に焦点をあて、A市B地域の地域づくりアンケートの結果を中心に地域福祉活動の展開を検討していく。

<調査の概要>調査はA市B地域コミュニティ協議会、B総合事務所より委託を受けた山

口福祉文化大学が実施した。郵送調査対象（以下、調査協力者）は、A市B地域の住民（875世帯）の半数407世帯、訪問調査対象は2集落27世帯である。B地域の4地区で偏りを出さないため、地区内の集落単位で半数の世帯を無作為抽出して郵送調査を行った。またコミュニティ協議会との協議でモデル集落を選定し、該当の集落（2地区から1集落ずつ）の全戸については訪問調査を行った。訪問調査は2012年2月下旬、郵送調査は2012年2月～3月にかけて行った。本調査では、世帯内のパワーバランスや家庭および地域内での役割の違いも考慮し、各世帯で男女ごとに回答していただいた。380の調査票を回収、有効票を375として集計分析の対象とした。郵送調査の回収率は54.05%であった。

### 3. 倫理的配慮

調査にあたっては、調査協力者に本調査が無記名であること、データを統計的に処理するため個人が特定されることがないことを、B地域コミュニティ協議会を通じて事前に説明し郵送時にも同封の書類で説明している。また、調査票回収にあたっては専用封筒を用意しプライバシーの保護に留意する等、日本社会福祉学会の研究倫理指針に沿っている。

### 4. 研究結果

#### (1) A市B地域住民の特徴

調査協力者の平均年齢は67.5歳で、60～70代が全体の60%を占めた。40代までの世帯は夫婦、子、親といった3人以上の家族構成が主体であるのに対して、50～70代では夫婦のみの世帯、80代以上では単身世帯が最も高い傾向を示している。

地域生活で感じている生活課題としては、地区によってばらつきはあるものの、若い世代では教育、就労等多岐に渡ることについて、壮年世代では収入や環境整備、農地管理の面で、高齢世代では健康・医療、交通・買物の面で不安を感じている。

#### (2) 集落活動に関する特徴

集落活動の主たる担い手は60代以上となっており、若い世代ほど集落活動への不参加度が高い傾向にある。また、集落活動への参加度は高いものの、集落活動の活気については低下傾向にあり、「集落活動に参加するが活気を感じられない」という回答傾向が90%に達している。集落単独の集落活動に困難を感じている調査協力者が15%～30%程度になっている。集落内での助け合いによって集落活動を支えていくべきだという意識が高い。

### 5. 考察

マクロな視点では人口流出を防ぐ産業の産出と雇用の安定が求められるが、メゾ・ミクロな視点では地域内のつながりや相互扶助機能をどう維持していくか、そしてそれを高齢世代だけではなく若い世代にも継承し広めていくか、縦のつながりを深化させる活動が必須となると考えられる。そのためにも、集落の枠をこえた地域福祉活動が求められる。